

6月25日正午必着

明石春浦先生書



月來池上花光淨。

雨過園林竹露濃。

(袁宏道)

雨後の園林の光景。

明石幸子書



茶煙向日香

(方回)

茶を煮ている煙が朝から夕までまたえない。

非求不得始安分無
事可為惟讀書

非_レ求_レ不得_レ始安_レ分。無_二事_一可_レ為_レ惟_レ讀_レ書（嚴啓煜） 閑時の讀書。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

笋老蘭長（白樂天）

笋老蘭長ず。

笋は筍に同じ。たけのこ。

松濤忽卷三更雨
林籟俄驚六月秋（吳景奎）

松濤忽ち巻く三更の雨
林籟俄かに驚く六月の秋

夜半に雨かと思つたのは松風の音であり、秋かと思つたのは林籟の爲であつた。

送_二溧水唐明府_一（韋応物）

溧水の唐明府を送る（韋応物）

三爲_二百里宰_一 已過_二十餘年_一
祗嘆官如_レ舊 旋聞邑屢_レ遷
魚鹽濱_レ海利 桑柘傍_レ湖田
到此安_二民俗_一 琴堂又晏然

三たび百里の宰と為り 已に十余年を過ぐ
祗だ嘆ず 官の旧の如きを 旋つて聞く 邑の屢々遷るを
魚鹽 海に浜するの利 桑柘 湖に傍う田
此に到つて 民俗を安んじ 琴堂 又た晏然たらん

6月25日正午必着

かがやけるひとすぢの道遙けくてかうかうと風は吹きゆきにけり（齋藤 茂吉）

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

獨愁
行吟
與

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

愁吟與
獨行

隸書

愁吟與
獨行

明石春浦先生書

草書

愁吟與
獨行

行草書

愁吟與
獨行

胸を傷めつつ詩を吟じ、ただひとり歩む。すべてに深い感懐をもよおす。
かの人が魚を釣ったところに久しく立ちつくすとき、ただ鳥の声がきこえてくるだけ。
山中の蔬菜は雨にうたれて枯れ尽き、水辺の樹木が籬の中にはいりこんではえている。
いまわれこの谷川のほとりにあって、君を懐しみ、悲しみ悼む気持をおし静めることができない。

經「周處士故居」

方干

愁吟與獨行

何事不關情

久立釣魚處

惟聞啼鳥聲

山蔬和雨歇

海樹入籬生

吾在茲溪上

懷君恨不平

周處士が故居を經

方干

愁吟と獨行と

何事か情に關わらざる

久しく釣魚の処に立ち

惟だ啼鳥の声を聞く

山蔬 雨に和して歇き

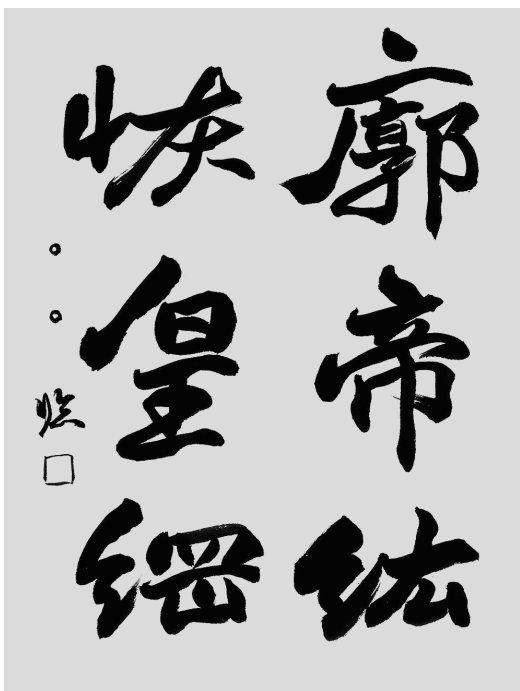
海樹 籬に入りて生ず

吾れ茲の溪上に在りて

君を懐うて 恨み平らかならず

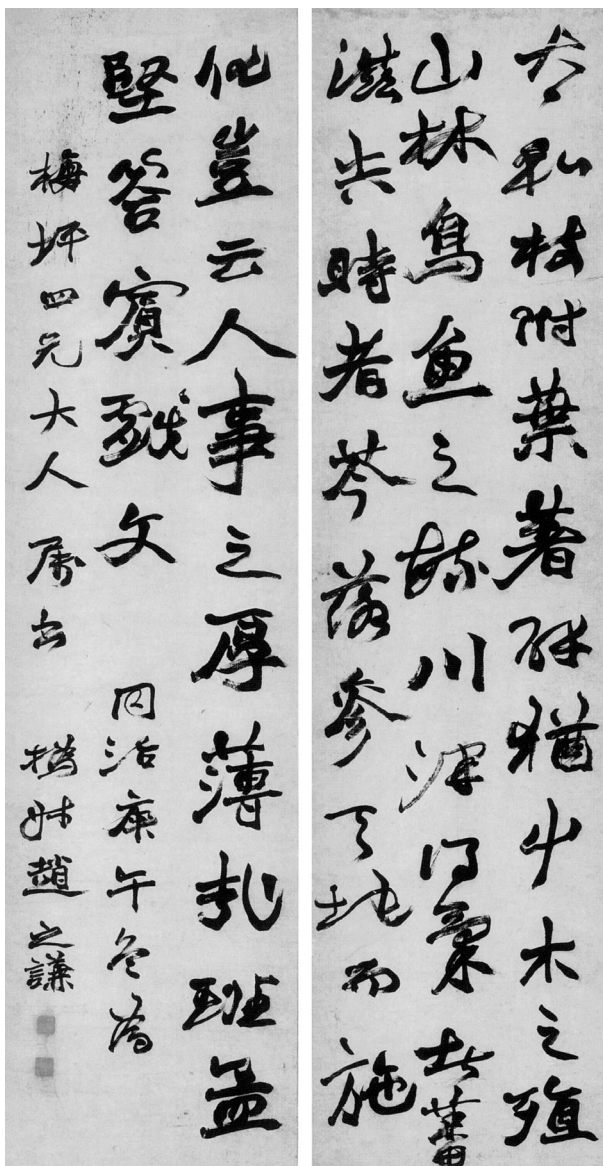
朝日新聞社刊
「二体詩」下より

6月25日正午必着



廓帝絃恢皇綏

※半紙は5月号を参照してください。



西 墨濤先生臨書

清 趙之謙・行書班固答賓戲文四屏

道光九年（一八二九）七月九日浙江省紹興に生まれ、光緒十年（一八八四）五十六歳で没した。はじめ字を益甫、冷君と号し、三十代になって字を搗叔、悲盞・无悶・愍察などと号した。

町の有力な商家の二男として生まれ、幼い頃から学問に目覚め、その才能を發揮していたが、家の没落、妻子の死という悲劇に見舞われた。科擧の推薦試験に合格していた彼は、三十五歳の時に進士の試験を受ける為に北京に上ったが、そこで出会った多くの人々や豊富な金石書画に触れ、すぐさまその道にのめり込んでいった。応試は二の次になり、五度の受験も結局及第することは出来なかった。彼の才能は書画篆刻に發揮されたが、書は晩年に熟境に到った。応試に必須であった顔法に始まり、北魏の刻石に触発され、さらに包世臣の書論における逆入平出の法に心酔し、独自の解釈を加えて彼の書法は完成していった。

この書は、杭州に寓居し家族を養うため盛んに書画を制作していた頃の作である。

（春濤）

太和。枝附葉著。辟猶草木之殖山林。鳥魚之育川沢。得氣者蕃滋。失時者芴落。參天地而施化。豈云人事之厚薄哉。班孟堅答賓戲文。同治庚午冬。為梅軒四元大人屬書。

搗叔趙之謙。

群猶少木之殖山林鳥魚之跡川澤以象其蓄
 滋失時者苓落參下地而施化豈云人事之
 厚薄也班孟堅答賓戲文 甲辰林鐘。芥臨□

辟猶草木之殖山林。鳥魚之育川沢。得氣者蕃滋。失時者苓落。參天地而施化。豈云人事之厚薄哉。班孟堅答賓戲文。

△做書參考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

江碧鳥逾白 山青花欲然 今春看又過 何日是歸年

看又過何日是歸年

故梅庵筆意
 去 □

こうはみどりにとりはいよいよしろく やまはあおくはなはもえなんとほつす
 江碧鳥逾白 山青花欲然 今春看又過 何日是歸年(杜甫)



しゅく 縮
ず 凶

中学一年

雨宮春聲先生書



ふん 噴
すい 水

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



あま

ぐ

小学五年

榎戸春龍先生書



ひょう

か

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着



まも
守 る

小学三年

藤田幸春先生書



たか
高 だい
台

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

あ さ 小学一年・幼年



森戸春濤書

休 み 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

池の中に石を投げる
とはもんが広がった

小学五年

七色の光を放つに
じのふん水を見た

小学六年

光る風草の波間をかけ
ぬけるわたしが見える

中学

時は去りゆくとも二人の想
いは変わらないうつまでも

一般(級位)

天つ風雲の通り路吹きとちよをとめの姿
しばしとらめむ

一般(段位)

天つ風雲の通り路吹きとちよをとめの姿しばしとらめむ(修正遍昭)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

を	き
	い
さ	ろ
し	の
ま	
し	か
た	さ

幼年

あ	き
じ	れ
さ	い
い	に
の	さ
花	い
	た

小学一年

ふ	大
つ	つ
て	ぶ
き	の
ま	
し	雨
た	が

小学二年

で	雨
る	あ
七	が
色	り
の	の
に	空
じ	に

小学三年

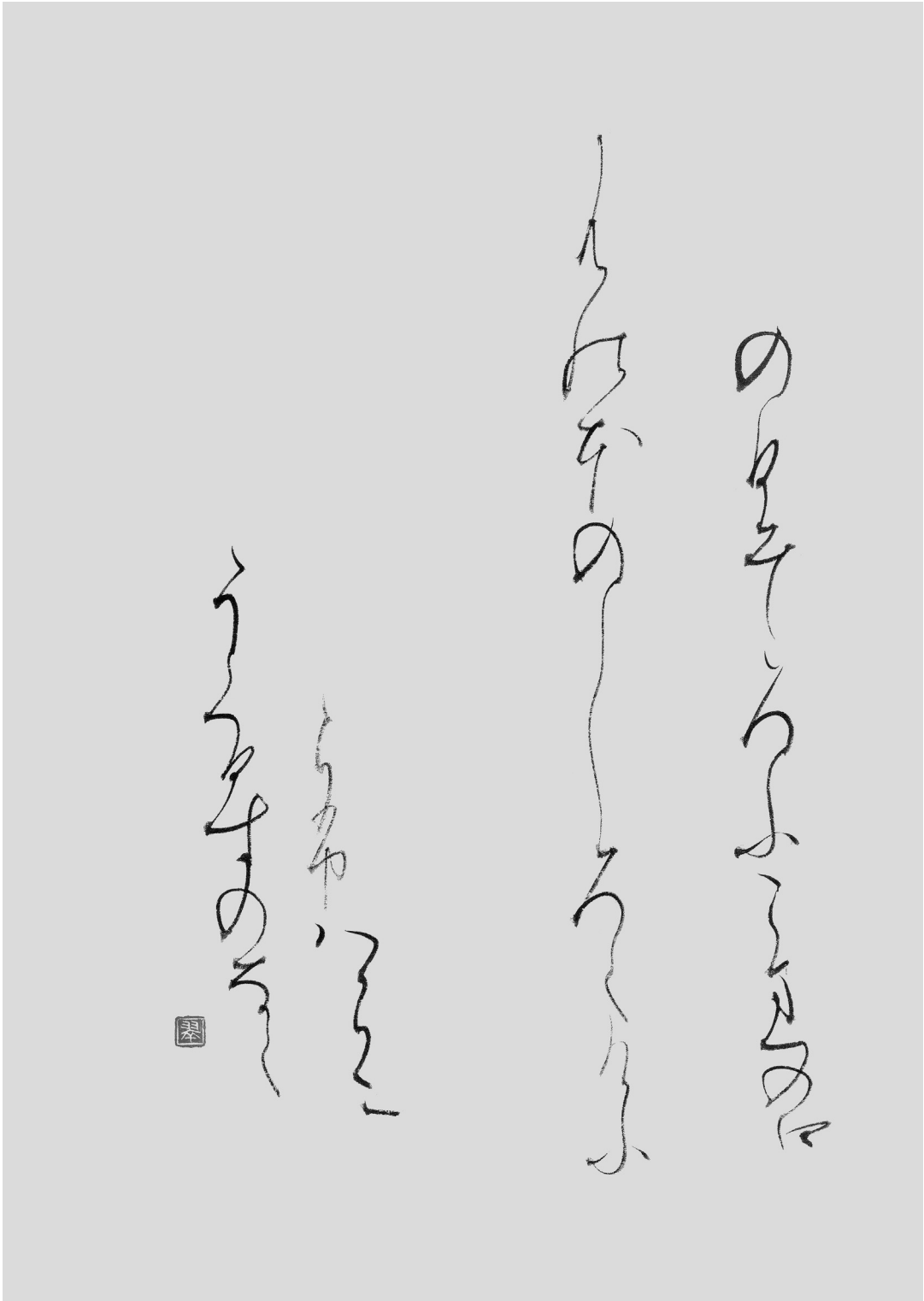
る	六
あ	月
じ	の
さ	長
い	雨
の	に
花	ぬ
	れ

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)

また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

のひそろふこまつのしんのほのしろくけふらふはらにうくひすのなく
 日 万 四 能本 介 布八二 日 奈